火災対策

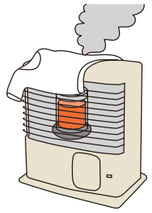
10の心得

住宅防火10の心得

1 **調理中は、コンロから離れない**
住宅火災の出火原因で一番多いのは、コンロによる火災。

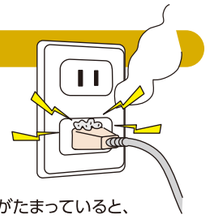
2 **寝たばこは、絶対しない**
たばこの不始末による火災で死者が多く発生している。

3 **ストーブの周りに、物を置かないようにする**
ストーブに可燃物が接触し、火災が多く発生している。



4 **家の周りを整理整頓する**
放火対策のため家の周りに燃えやすい物は放置しないようにする。

5 **ライターやマッチを子供の手の届く場所に置かないようにする**
火遊びによる火災は毎年全国で1,000件程度発生しています。



6 **コンセントの掃除を心掛ける**
湿気の多い場所にあるコンセントに、ほこりがたまっていると、火災発生の要因になる場合がある。

7 **住宅用火災警報機をすべての寝室・階段に設置し、定期的な作動確認をする**
設置された住宅の火災による被害は、未設置住宅の約1/2になっている。

8 **寝具類やエプロン・カーテンなどは、防炎品にする**
防炎品は、火が接しても着火しにくく、燃え広がるのを防ぐ。

9 **万が一に備え、消火器を設置し、使い方を覚える**
初期消火に成功すると火災による被害が大幅に軽減される。

10 **ご近所同士で声をかけあい、火の用心に心掛ける**
火災を発見したら、大声で周囲に知らせ、119番通報する。

火災報知器

住宅用火災警報器

平成20年6月1日から、すべての住宅に住宅用火災警報器の設置が義務付けされました。
住宅火災からあなたの大切な家族を守るために、早めに設置しましょう。

Q. なぜ、火災警報器の設置が義務付けられるの?

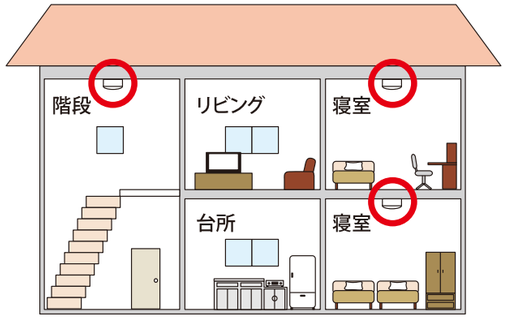
A. 住宅火災による死者が増加し、その多くは、逃げ遅れによるものがほとんどです。死者は高齢者の割合が多く、さらに死者数が増加する恐れがあります。
これらのことから、火災を早期に発見し、家族のみなさんがいち早く避難できるように設置していただくものです。

Q. 住宅用火災警報器とは?

A. 感知部、警報部等が一体となった単体型の警報器で、火災の煙等を自動的に感知して警報音や音声で知らせる機器です。
配線を必要としない電池式のものが主流で、一般の方でも簡単に取り付けることができます。

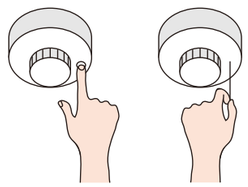
Q. どこに設置するの?

A. まずは寝室をチェック!
就寝に使用する部屋(子供部屋や、日中は居間として使用し、夜間に就寝する部屋も含む)の天井または壁に設置します。
次に階段をチェック!
就寝に使用する部屋がある階の階段(避難階を除く)の天井または壁に設置します。
台所の設置義務はありませんが、取り付けをお勧めします。



住宅用火災警報器は、お手入れ・点検を!

万が一の火災が起きたとき、住宅用火災警報器がしっかり動くように日ごろから点検とお手入れをしましょう。



点検の方法 本体のひもを引くものやボタンを押して点検できるものなど、機種によって方法が異なります。警報器の説明書で確認しましょう。

点検の時期 1か月に1度を目安に点検しましょう。

火災時の行動

もし出火したら…

行動1 早く知らせる

- 大きな声で「火事だー!」と叫び、隣近所に知らせる。
  声が出ないときは、非常ベルを鳴らすか、やかんやなべなど音がでるものをたたく。
- どんなに小さな火事でも必ず119番通報する。
  ※安全な場所に避難してから通報する。

☑ 覚えておこう!

「119」のかけ方

通報時に伝える内容は、下記を参考に。

1. 火災であることを伝える
2. 災害現場の場所(住所)
3. 何が燃えているか
4. けが人や逃げ遅れている人がいるか
5. かけている電話番号
6. 通報者の名前

携帯電話から通報する場合

災害地点を確認するのに時間がかかる傾向があります。
携帯電話から通報するときは、次の点に注意してください。

◎所在や目標を確かめてから通報を
◎自動車からの通報は、安全な場所に停車してから
◎途中で切れないように注意を
◎高速道路では、災害地点を正確に伝える

消火器の使い方

1 安全ピンに指をかけ、上に引き抜く
2 ホースをはずして火元に向ける
3 レバーを強く握って噴射する

消火器の構え方

1 火の風上にまわり、風上から構えてから使用する。
2 やや腰を落として、低く構える
3 炎を狙うのではなく、火の根元を掃くように左右に振る

※屋内で使用する場合は、避難場所を確保してから使用する。

行動2 初期消火

- 火がまだ横に広がっているうちは消火が可能。
- 消化器や水だけでなく、毛布など手近なものを利用する。

☑ 覚えておこう!

火元によって消火方法が異なる

コンロ
- 油なべに水をかけるのは厳禁。
- 消火器は離れた位置から、なべの全面を覆うように向け噴射する。
- 消火器がない場合は、シーツやバスタオルをぬらして手前からかぶせ、空気を遮断する。

ストーブ
- 消火器は直接火元に向けて噴射する。
- 消火器がない場合は、シーツや毛布などをぬらして手前からすべらせるようにかぶせ、空気を遮断する。

電気器具
- いきなり水をかけると感電の危険がある。コンセントかブレーカーを切り、消火器で消火する。

カーテン・ふすま・障子
- カーテンは燃え広がる前に水をかける。できればレールから引きちぎり消火する。
- ふすまや障子などはけり倒して、踏み消す。その後、水をかけてしっかり消火する。

たばこ
- 寝たばこなどにより布団などの綿製品が焦げた場合は、消したつもりでも見えないところに火種が残り、再び燃えだすことがあるので、浴槽などにつけ完全に消す。

衣類
- 着衣に火がついたら、あわてず走らず、水道水など身近な水で消火する。水がない屋外では、地面を転げ回って消火する。

行動3 早く逃げる

☑ 本当に恐ろしいのは煙です!
ぬらしたタオルやハンカチなどで口と鼻を覆いながら、低い姿勢で避難しましょう。

- 天井まで火が燃え広がったら消火は困難。
  無理せず早めに避難する。
- 可能ならば、燃えている部屋の窓やドアを閉め、空気を遮断してから避難する。